『逍遙館長的こころ』をお読みくださったみなさまへ

雌猫の“すず”と“逍遙館長”がくり広げてきた，城山の歴史よもやま話の旅は，探勝園をスタートして，鹿児島城二の丸跡，本丸跡，御楼門，私学校跡を経て名山堀まで足を延ばし，西郷隆盛像に辿りつきました。

旅の最後に眺めた西郷の姿に，「優しさ」という人間の本質的な強さを見いだした二人。鹿児島城の麓エリアを一筆書きにめぐる旅を終え，いまはほっと一息つきながら，新たな日常に向き合う日々。

歴史の中で起こった出来事や人々の喜び，哀しみ，そして私たちの日常も，“明日になれば物語になる―”とは，逍遙館長の心の言葉。ここ城山の歴史は物語の積み重なりと言えるかもしれませんね。

物語を積み重ね，旅への思いがつのった頃，二人はまた旅に出るのでしょう。その時には，これまでとは違った城山の景色が見えてくるのかもしれません。

新しい旅が始まったとき，また『逍遙館長的こころ』でお会いしましょう。

黎明館おうちミュージアム　編集人